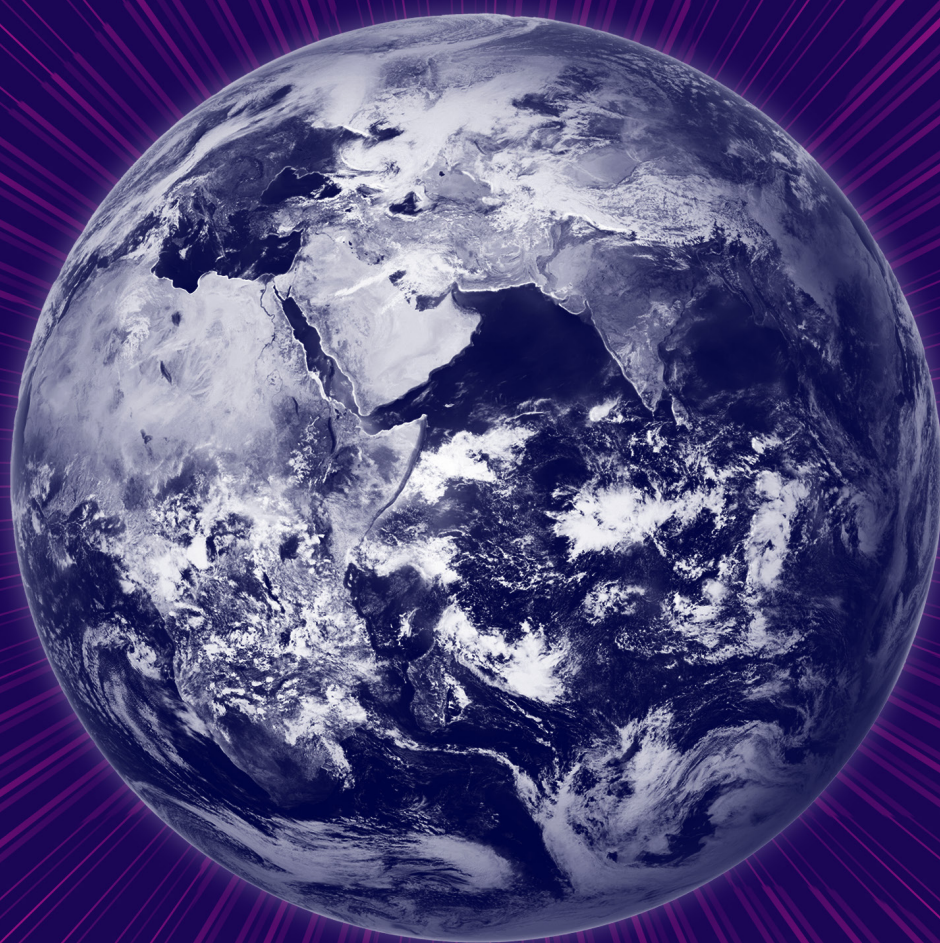


オルタナティブ投資動向 2025年



PREQIN

Acknowledgements

Lead author

Harsha Narayan, CAIA

Research Insights analysts

Cameron Joyce, CFA, CAIA

Victoria Chernykh, MBA

Michael Patterson, CFA

RJ Joshua, CFA

Charles McGrath, CFA, CAIA

Henry Lam, CFA, CAIA

Alex Murray, PhD

Executive editor

Libby Fennessy

In-house designers

James Flanagan

Tim Short

Client contribution managers

Manuel Oliva Alegre

Aaron Reid

Japanese editor

Manami Takano

本レポート「オルタナティブ投資動向2025年」は、Preqin Ltd. (以下、「当社」) が作成した資料を、Preqin合同会社が和訳および編集してご提供するものであり、英語原文と本資料の内容に相違がある場合には、原文が優先します。本資料は当社の著作物であり、著作権法、著作権に関する条約、およびその他の法律により保護されています。当社からの書面による承諾なしに、本資料の一部、または全文、本資料に含まれる情報を複製、送信、記憶媒体へ保存、印刷、出版することを禁じます。本資料は、情報提供のみを目的としており、いかなるファンド、有価証券、または金融商品の取得や売却、またはその他の取引に関する勧誘、推奨、もしくはいかなる性質の助言を構成するものではなく、そう解釈されるべきではありません。本資料の利用者が情報ではなく助言を希望する場合、独立系フィナンシャル・アドバイザーの助言を求めることを考慮すべきであり、本資料の利用後に行う、または行わない、如何なる性質の決定に関しても、法律上あるいは衡平法上、当社の責任を問わないことにここに同意するものとします。本資料に掲載されている情報は、信頼できると判断した情報源を基に作成し、可能な限り、かかる情報の正確性を精査するように努めていますが、当社は、掲載される情報または意見の正確性や信頼性、鮮度、完全性について、これを保証するものではありません。本資料の正確性を確保するために、あらゆる合理的な努力を尽くしていますが、当社は、本資料内の誤りや脱落、あるいは本資料の利用により生じた損害に対して、いかなる責任も負いません。

目次

5	サマリー
6	プライベートエクイティ
9	ベンチャーキャピタル
12	プライベートデット
15	ヘッジファンド
18	不動産
21	インフラ

編集注記

- ・ 本レポートは、「Preqin グローバルレポート 2025年」からの一部抜粋です。全文レポートにご関心のある方は、有料レポート購読サービス「Preqin Insights+」をご検討ください。
- ・ 特に記述がない限り、本レポートに掲載の図表は「世界全体」のデータです。

有料レポート購読サービス

プレキン・インサイトプラス

Preqin Insights+

よりよい投資判断につなげるために必要な
最新のオルタナティブ市場動向やトレンドを提供します。

- 専属アナリストによる分析から効率的にトレンド・全体像を把握
- 各オルタナティブ資産の最新動向と今後の展望を理解
- 今後の資産配分や投資方針策定のヒントを得る
- ファンド条件や手数料のトレンドを把握
- 特定の投資地域や戦略ごとの特徴を理解

問い合わせる

PREQIN



サマリー

オルタナティブ業界はマクロ経済環境の変化でどう推移するか

「オルタナティブ投資動向 2025年」はInsights+の購読者向けレポート、「[Preqinグローバルレポート 2025年](#)」からの一部抜粋です。各アセットクラスのハイライトは以下のとおりです。

- **プライベートエクイティ: 難局を脱する可能性**
プライベートエクイティは、急激な利上げにより、2022年と2023年の2年間は過去20年間で最も厳しい環境下にありましたが、2024年は金融緩和により回復しました。このため、2025年はバリュエーション、ディールメイキング、エグジット環境が好転する可能性があります。
- **ベンチャーキャピタル: 見通しは明るい**
2024年第3四半期までの資金調達環境とエグジット環境は低調でしたが、利下げにより、パフォーマンスやエグジットは改善していくと見られます。
- **プライベートデット: ファンドマネージャーと投資家はマクロ経済環境の変化に適応**
主要国の中央銀行が金融緩和を開始しているため、ディールフローや出資増で好調となる見通しです。ただし、投資家は金利低下によるパフォーマンスへの影響を懸念しており、短期的には出資が抑制される可能性があります。投資家調査によると、前年と比べてプライベートデットへの警戒感が高まっていますが、長期的に見ると、投資家のセンチメントは良好です。
- **ヘッジファンド: 純流出ながら運用資産残高 (AUM) は増加**
過去10年、資金が純流出傾向にあったにもかかわらず、2024年は債券市場が異例のボラティリティを示し、引き続きヘッジファンドはリスク軽減手段となりました。なかでも、CTA (マネージドフューチャーズ)、マクロ、レラティブバリュエーションなど、公開市場との相関性が低く、ポートフォリオのボラティリティ低減に役立つヘッジファンド戦略に投資家は注目しています。
- **不動産: 改善の兆し**
金利が低下するなか、投資家は戦略やリスクエクスポージャーの観点から不動産への資産配分を変更しています。コアやバリュエーションといった一部の戦略はパフォーマンスが大幅に回復していく見込みです。
- **インフラ: パフォーマンスは底堅いものの、資金調達は依然低調**
投資家からのインフラへのコミットメントは2022年に大幅に増加した後、2023年以降はリバランスの一環として減少しています。長期的には好調なパフォーマンスが続いていますが、2025年は地政学的リスクが今後1年のリターン創出にとって最大の課題になると考えられます。

プライベートエクイティ 投資家、ファンドマネージャーは、2025年は プライベートエクイティが好調になると予測

「[Preqin グローバルレポート 2025年:プライベートエクイティ](#)」からの一部抜粋です。



リードアナリスト:
Victoria Chernykh (MBA)
リサーチインサイト
AVP
プライベートエクイティ専門



[レポートをみる](#)

金融緩和が2025年の資金調達を後押し

- 利下げ時期が予想より遅かったことや、経済・地政学リスクが根強いことから、2024年第1～第3四半期の世界のプライベートエクイティ (PE) ファンドの資金調達額は4,820億米ドルで、前年同期比で減少しました (図1.1)。
- 2023年の資金調達額は過去最高の7,810億米ドルでしたが、2024年通年では下回る見込みです。
- 2025年は、さらなる金融緩和が予想されるため、プライベートエクイティに対する投資家の期待感は回復しつつあります。最新の調査によれば、今後1年にプライベートエクイティへの資産配分を増やす予定としている機関投資家は半数におよび、2023年の28%から大幅に増加しました。

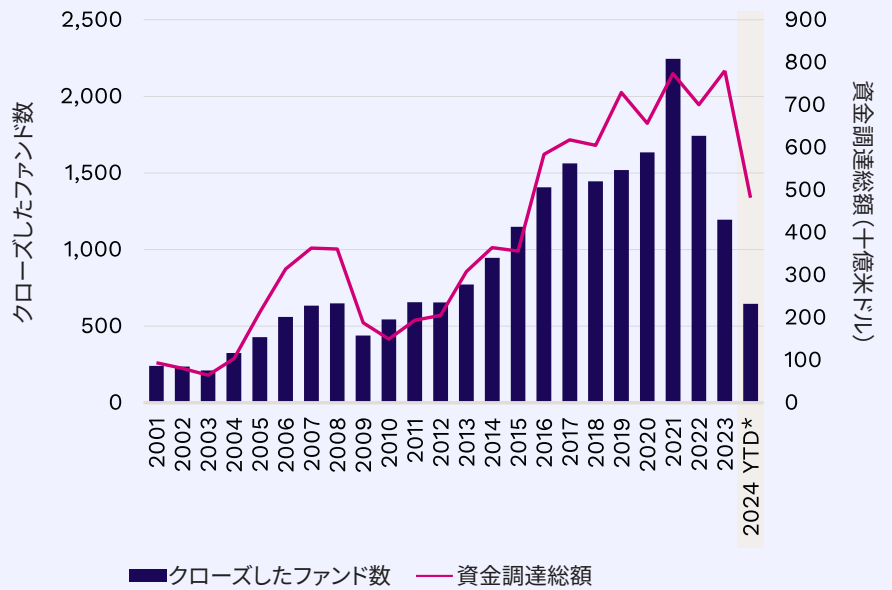
エグジット環境の最悪期は過ぎた可能性

- 過去2年はディスカウントレートの上昇がバリュエーションを抑制し、エグジットおよびディール活動は低調に推移しました。それが、最新のディールデータによると、回復の可能性を示しています。
- 2024年第1～第3四半期まで、エグジット全体に占める新規株式公開 (IPO) の割合は9%で、リーマン・ショック時の2008年に匹敵する低水準となりました。とはいえ、2023年の同割合は7%であり、IPO割合は2023年に底を打った可能性があります (図1.2)。
- 米国と欧州の金融緩和策はバリュエーションを押し上げ、エグジット、ディール活動ともに活気を取り戻すと見られます。

投資家が今後1年に選好する戦略はセカンダリーからスモール～ミドルマーケットのバイアウトに回帰

- 2023年は厳しいエグジット環境により投資家への分配が遅れたことで、流動性ソリューションとしてセカンダリー戦略への関心が高まりました。
- しかし、最新の投資家調査によれば、短期的にはスモール～ミドルマーケットのバイアウト戦略が最も人気のある戦略となっています。
- 利下げに伴いPE市場に流動性が戻ることが予想され、投資家は歴史的に力強いパフォーマンスを達成してきたスモール～ミドルマーケットバイアウト活動が増えるかとみえています。

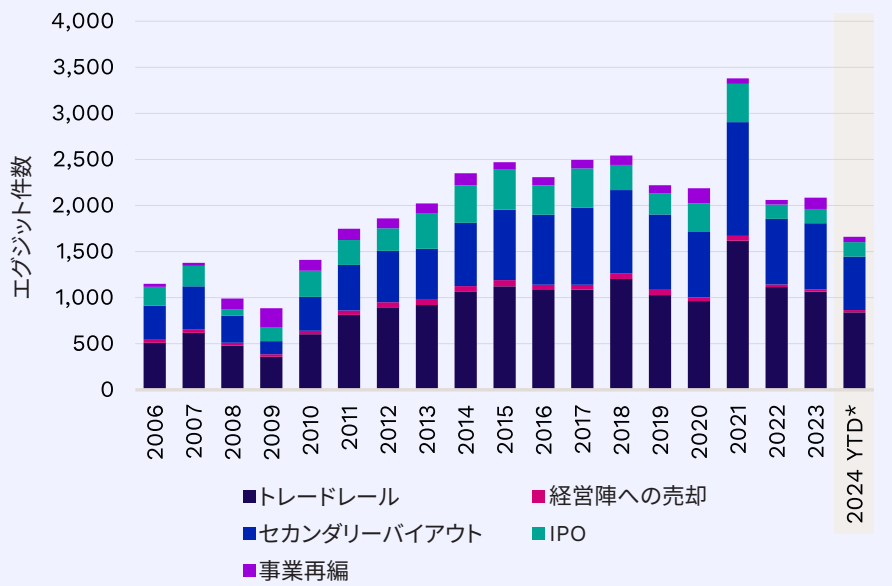
図1.1: クローズしたPEファンド数と資金調達総額



*2024年第1～第3四半期

出所: Preqin

図1.2: タイプ別・PEエグジット件数



*2024年第1～第3四半期

出所: Preqin

コメント

Preqinアナリスト

- 「規制リスクや地政学的リスク、アセットバリュエーションへの懸念もありますが、投資家もPEファンドマネージャーも、2025年は2024年より前向きになっているようです。PE業界は公開市場よりも高いリターンや相関性の低さに対する長期的な需要から、好調な推移が見込めます」

Victoria Chernykh
MBA AVP, Research Insights

識者

- 「PE業界が洗練されるにつれ課題も変化しています。特に、データプライバシーとサイバーセキュリティの分野での課題が挙げられます。こうした脅威の高まりや規制強化を背景に、PEファンドマネージャーは複雑な環境での舵取りを強いられています」

Jason Stevens
Chief Technology Officer, Ultimus LeverPoint

ベンチャーキャピタル 2024年の厳しさを経て、 転換期にあるバリュエーションとパフォーマンス

「[Preqin グローバルレポート 2025年：ベンチャーキャピタル](#)」からの一部抜粋です。



リードアナリスト：
Michael Patterson (CFA)
リサーチインサイト
シニアアソシエイト
ベンチャーキャピタル担当



[レポートをみる](#)

エグジット環境の悪化で資金調達の苦戦続く

- ベンチャーキャピタル (VC) ではエグジットの減少や収益の低下から投資家への資本還元が厳しくなり、新規ファンドに投資できる資金が圧迫されています。
- 2024年第1～第3四半期には、800本のファンドが848億米ドルを調達しました。年間で見ると、2023年の1,645本、調達額1,359億米ドルから減少する見通しです。
- ドライパウダーも2023年12月の6,650億米ドルから2024年第1四半期末には6,000億米ドルに減少し、ディールメイキングにも影響が出ています。

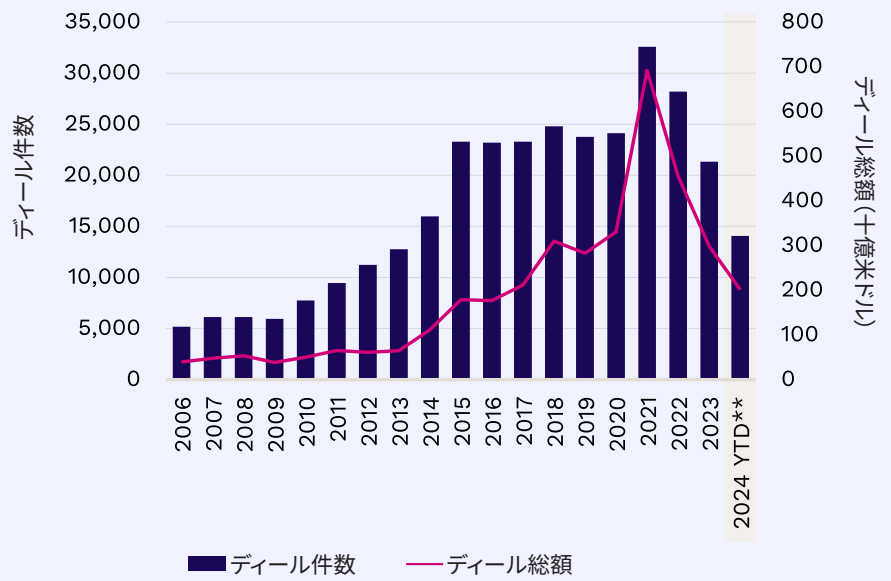
ディール活動は軟化ながら、好調なセクターも

- 2024年第1～第3四半期までのVCディール数は1万4,056件、ディール総額は2,010億米ドルで、ともに通年で2023年を下回る見通しです。ただ、セクターや地域によっては好調な分野が見受けられます (図2.1)。
- 例えば、人工知能 (AI) など一部のセクターは活発なディール活動と高いバリュエーションを示しています。
- 地域別に見ると、北米は回復の兆しが見られ、2024年は2023年のディール総額を上回る見込みです。一方、アジアでのディールは、エグジットと資金調達の低迷により急減しています。

パフォーマンスは回復見通し

- 2019年～2021年ビンテージのVCファンドのパフォーマンスは、バリュエーションの上昇と厳しいエグジット環境により低迷しています。
- 実際、PreqinのVCインデックスを見ると、2021年12月のピークから数四半期にわたって低下していました。しかし、2023年12月に底を打ったと考えられます (図2.2)。
- 2025年は米国の金利低下を背景に、パフォーマンスとエグジットは改善する見通しです。

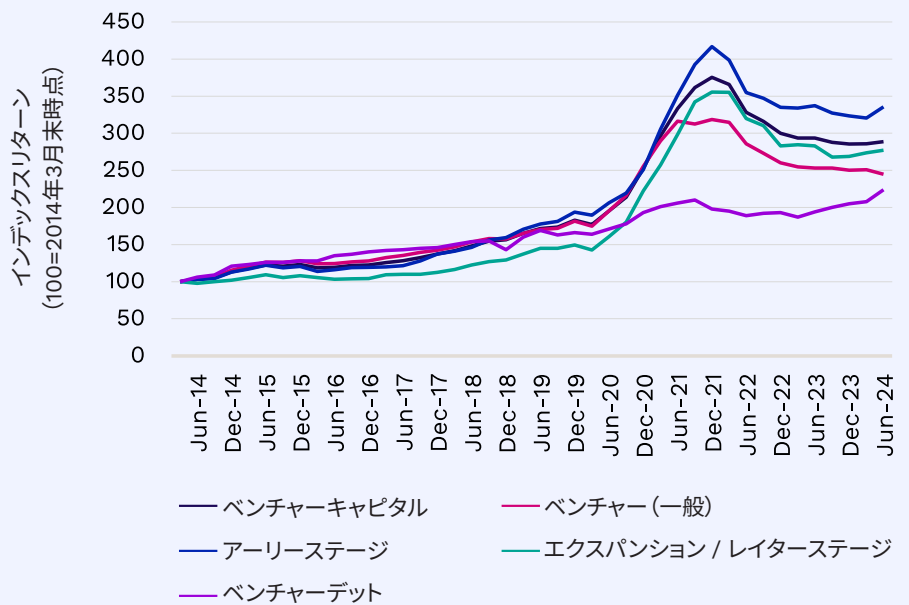
図2.1: VCディール数*



出所: Preqin Pro

*アドオン、グラント、合併、証券会社による株式購入、ベンチャーデット除く
 **2024年第1～第3四半期

図2.2: 戦略別・Preqin VCインデックス (2014年～2024年ビンテージ、ネットIRR)



出所: Preqin Pro

コメント

Preqinアナリスト

- 「ベンチャーキャピタルは米国の金利低下によりパフォーマンスとエグジットが改善し、2025年に向けて回復する見通しです。なかでも、レイターステージよりアーリーステージの方が有利になると予想されます。いずれにせよ、ベンチャーキャピタルは、イノベーションや技術的ディスラプション(創造的破壊)へのエクスポージャーを得ようとする投資家にとって最良の投資先であることに変わりはありません」

Cameron Joyce,
CFA, CAIA Global Head of Research Insights

プライベートデット 投資家とファンドマネージャーは マクロ経済環境の変化に適応

「[Preqin グローバルレポート 2025年：プライベートデット](#)」からの一部抜粋です。



リードアナリスト
RJ Joshua (CFA)
シンガポール拠点
リサーチインサイト
PD&手数料のヘッド



[レポートをみる](#)

2024年の資金調達は鈍い滑り出しから回復

- プライベートデット (PD) の2024年の資金調達は、第1四半期の滑り出しこそ鈍かったものの、マクロ経済の改善やソフトランディング見通しが高まったことで、第2四半期と第3四半期は回復しました。
- 2024年第3四半期末までの資金調達額は1,180億米ドルとなり、通年では1,570億米ドルとなる見通しです。2023年の2,140億米ドルからは減少するものの、10年平均の1,610億米ドルに近い数字となる見込みです。
- 投資家動向調査によると、短期的にはPD投資への警戒感は強まっていますが、長期的なセンチメントは依然として良好です。

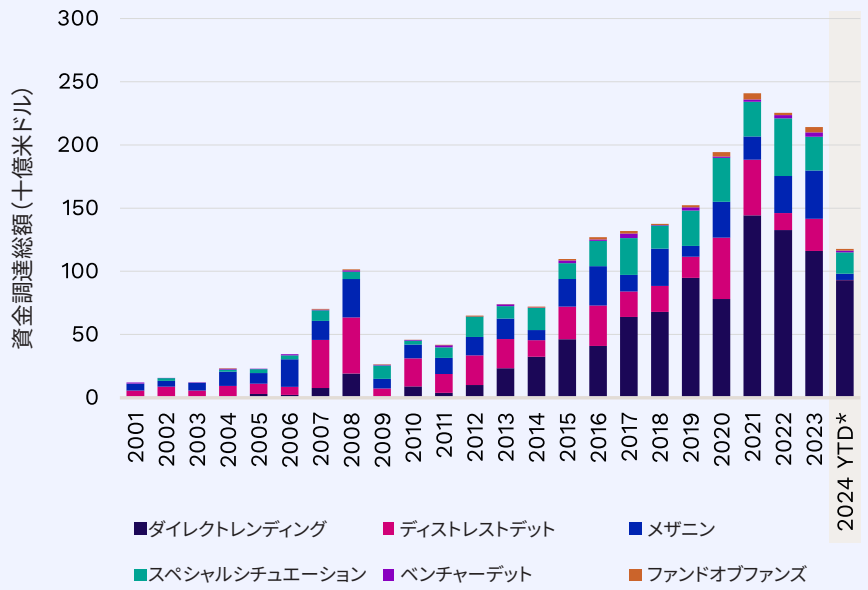
投資家はディストレスト戦略よりダイレクトレンディングを选好

- インフレ率と金利が低下し、プライベートデットのデフォルト率が低いことから、投資家センチメントは1年前より前向きになっています。
- 戦略別に見ると、ダイレクトレンディングが資金調達に占める割合は2023年の54%から79%に跳ね上がり、2024年第1～第3四半期の資金調達額は930億米ドルで、最も人気となりました (図3.1)。
- 一方、ディストレストデットは再びニッチ戦略とみられるようになってきました。最新調査によれば、ディストレストデットを选好する投資家は、1年前の51%から35%に減少しました。

機関投資家の交渉力が高まり管理報酬(マネジメントフィー)は引き下げ傾向に

- 資金調達環境の悪化を背景に、手数料にも変化が見られます。2024年ビンテージのダイレクトレンディングファンドの平均マネジメントフィーは前年から26ベースポイント(bp)低下して、1.42%となりました (図3.2)。
- また、ダイレクトレンディングファンドのマネジメントフィーの中央値は1.50%でした。メザニン、ディストレストデット、スペシャルシチュエーションといった他のPD戦略は、アクティブ運用が必要なため手数料が高くなる傾向があり、ダイレクトレンディングを除くマネジメントフィーの中央値は2.00%となっています。
- ダイレクトレンディング戦略のマネジメントフィーは、資金調達環境が改善するまで引き下げ傾向が続くかもしれません。

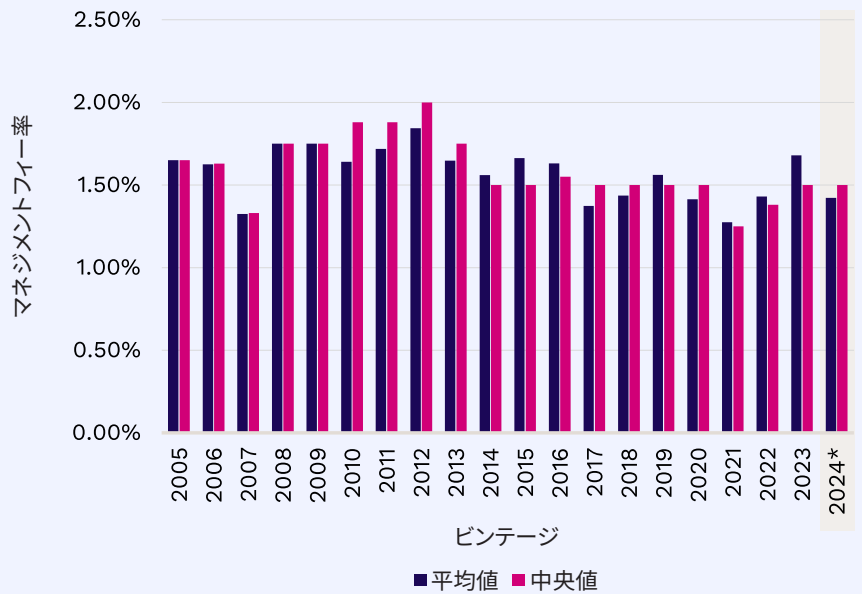
図3.1:タイプ別・クローズしたPDファンドの資金調達総額



*2024年第1～第3四半期

出所: Preqin

図3.2:ビンテージ別・ダイレクトレンディングファンドの平均マネジメントフィー



*2024年初来

出所: Preqin Pro、2024年6月時点

コメント

Preqinアナリスト

- 「投資家にはディフェンシブな動きが見られ、資金の大半を、最も規模の大きい地域である北米や、最もシンプルで一般的な戦略であるダイレクトレンディング、そして知名度の高い最大手のファンドマネージャーに配分しています。投資家は長期的には引き続きプライベートデットに前向きな見方を維持しているものの、1年前ほど大胆ではなくなっているようです」

RJ Joshua, CFA

VP, Head of Private Debt and Fees, Research Insights

識者

- 「プライベートデットは、ミドルマーケット企業や高レバレッジ企業にとって重要な資金調達を支援するニッチ商品から、タイプや状況を問わず、あらゆる企業を支援する1兆米ドル規模のアセットクラスへと成長しています」

Drew Maloney

President and CEO, American Investment Council (AIC)

ヘッジファンド 厳しい市場環境で、投資家は分散効果がありポート フォリオのボラティリティを低減する戦略を選好

「[Preqin グローバルレポート 2025年：ヘッジファンド](#)」からの一部抜粋です。



リードアナリスト
Charles McGrath (CFA, CAIA)
リサーチインサイト
AVP
ヘッジファンドのリード



[レポートをみる](#)

長期的に資金流出が続く中、2024年第3四半期には一筋の光

- ヘッジファンドの2024年第3四半期の純資金流入額は255億米ドルと、2021年以来の高さとなりました。
- その結果、2024年第1～第3四半期の運用資産残高 (AUM) は前年同期比11.5%増と過去の平均を大幅に上回り、4兆8,800億米ドルに達しました。
- ただ、第3四半期の資金流入増は一時的なものであり、過去10年間の大半は資金が純流出しており、長期的に見ると、AUMの増加の大部分はパフォーマンスによるものでした。

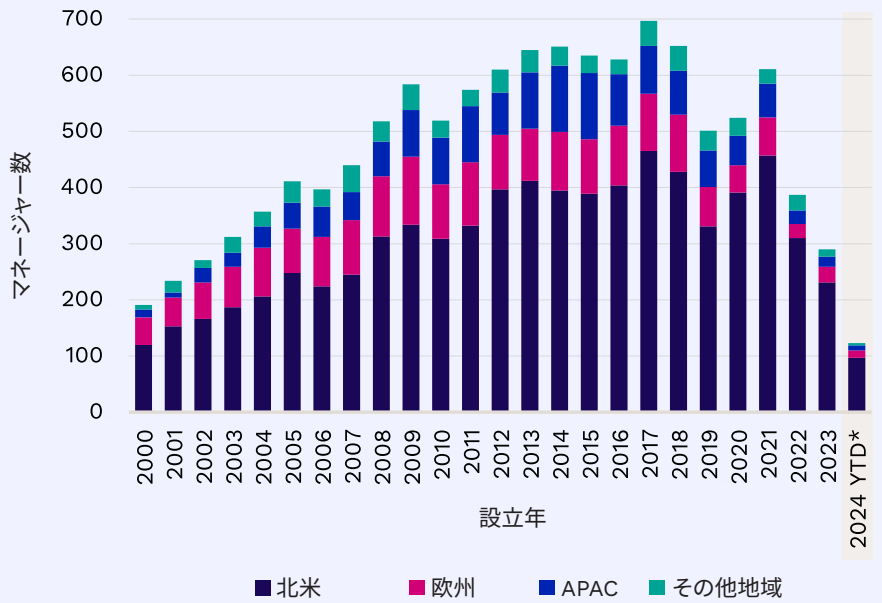
新規ファンドの立ち上げは過去最低水準

- 機関投資家は近年、ヘッジファンドへの資産配分を減らしています。
- 特に公的年金基金は過去5年間でヘッジファンドへの平均配分比率を総資産の約8%から約7%に減らしており、相当額がヘッジファンドから流出しています。
- こうした低調な投資家センチメントを背景に、ヘッジファンド市場に参入する新興マネージャーの数は過去8年にわたり減少傾向にあります。2024年は2000年以来の低水準となる見通しです (図4.1)。

投資家は一部の戦略に注目

- 課題はありますが、投資家はヘッジファンドが高いリスク調整後リターンとボラティリティヘッジをもたらすと捉えています。同様の傾向は投資家調査でも見られています。
- 特に債券市場が異例のボラティリティを示した2024年において、ヘッジファンドは効果的なリスク軽減戦略となりました。Preqinのオール・ヘッジファンド・インデックスは2024年1月～9月に10.09% (年平均成長率13.67%) のリターンを記録し、公開株式よりは低調となったものの、債券市場をアウトパフォームしました (図4.2)。
- 投資家は現在、CTA (マネージドフューチャーズ) やグローバルマクロなど、公開市場との相関性が低く、ポートフォリオのボラティリティ低減に役立つ戦略を選好しています。これは投資家調査の結果と合致しています。

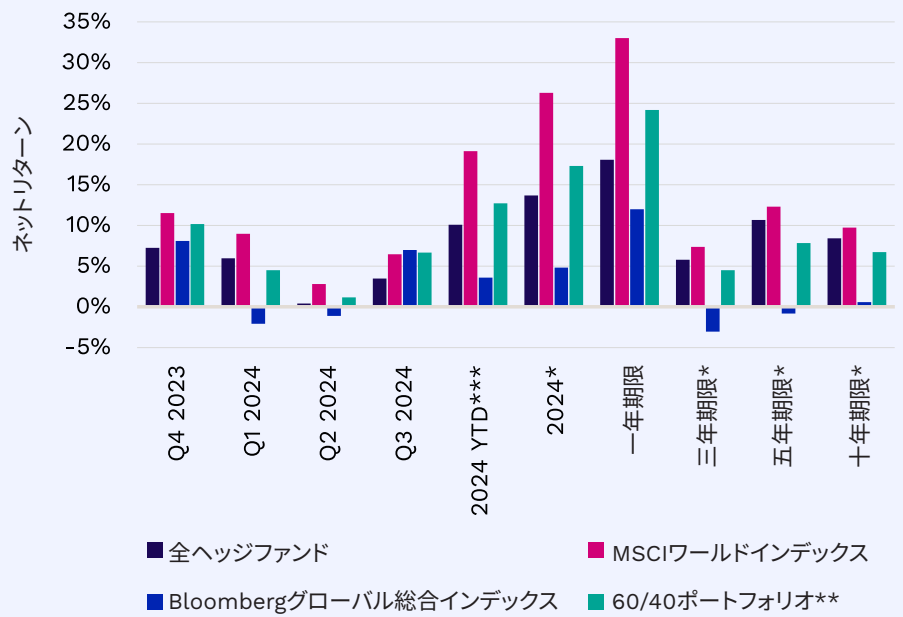
図4.1: 設立年および地域別・ヘッジファンドマネージャー数



*2024年初来

出所: Preqin Pro、2024年9月時点

図4.2: ヘッジファンドと公開市場のパフォーマンス



*年率

**60% MSCIワールドインデックス/40% Bloombergグローバル総合インデックス

***2024年第1~第3四半期

出所: Preqin機関投資家調査2024年下半期

コメント

Preqinアナリスト

- 「予想していた通り、9月末までのヘッジファンド全体のリターンは公開株式より下回りましたが、債券市場をアウトパフォームしました。リスクの観点から見ると、投資適格債市場の最近のボラティリティ低下により、投資適格債と株式との相関性が高まりました。その結果、ヘッジファンドはリスク軽減手段となっています」

Charles McGrath
CFA, CAIA AVP, Research Insights

識者

- 「ヘッジファンド戦略は機会が豊富であると見られています。機関投資家や超富裕層だけではなく、すべての投資家がトップクラスのファンドにアクセスしやすくなるよう、さらに多くのファンドや投資形態が市場に登場することを期待しています」

Joseph Burns
Managing Director, Head of Hedge Fund Research, iCapital

- 「リキッドオルタナティブファンドやリキッドヘッジファンドはどんな景気サイクルでも絶対収益を生み出すことができます。プライベートマーケットファンドは公開市場にはない新たな資産やリターン源へのアクセスを投資家に提供することができます」

Alexander Schoenfeldt
Head of Investments, Lumyna

不動産 資金調達は依然低調だが、好転の兆し

「[Preqin グローバルレポート 2025年：不動産](#)」の一部抜粋です。



リードアナリスト
Henry Lam (CFA, CAIA)
リサーチインサイタ
AVP
不動産専門



[レポートをみる](#)

募集中ファンドの平均目標資金調達額は減少

- 2024年の不動産の資金調達総額は前年の水準に届かない見通しです。2024年第1～第3四半期は世界で416本の不動産ファンドが合計960億米ドルを調達しましたが、前年同期比でそれぞれ22%減、6%減となっています。
- 募集中のファンドを見ると、目標資金調達総額は2013年以降初めて減少し、2024年初の6,320億米ドルから、第3四半期末には6,150億米ドルとなりました(図5.1)。
- また、ファンド1本あたりの目標資金調達額平均は4,500万米ドル減の2億2,300万米ドルとなり、小規模ファンドの割合が増加したことがうかがえます。

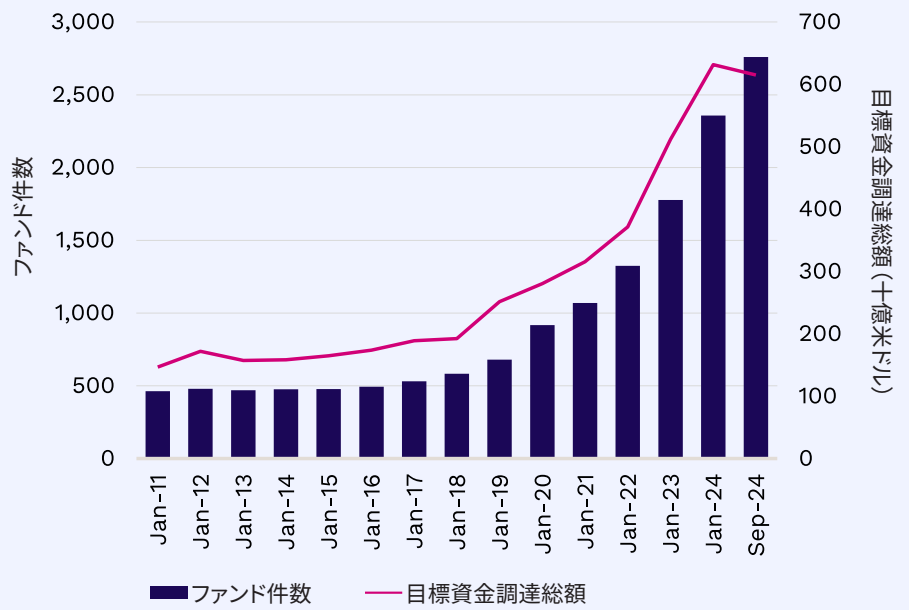
初号ファンドによる資金調達は回復

- Preqinのデータを見ると、金利低下サイクルにおける資産配分の変更に伴い、投資家のリスク選好度が高まっている可能性があります。私募不動産の初号ファンドによる資金調達総額は、2023年は前年比で70%以上も激減しましたが、その後は持ち直しています。
- 実際、2024年第1～第3四半期の初号ファンドの資金調達総額は68億米ドルに達し、2023年通年の総額をすでに17億米ドル上回っています。
- これは明るい兆しといえます。当社の分析では、初号ファンドはリターンのばらつきは大きいながら、IRRの中央値は高くなる傾向があります。このため、長期的な不動産への資産配分意向がある投資家は、有利なファンド条件や大きな上振れ期待に魅力を感じ、初号ファンドへの投資を続けるでしょう。

コア戦略とバリューストック戦略に注目

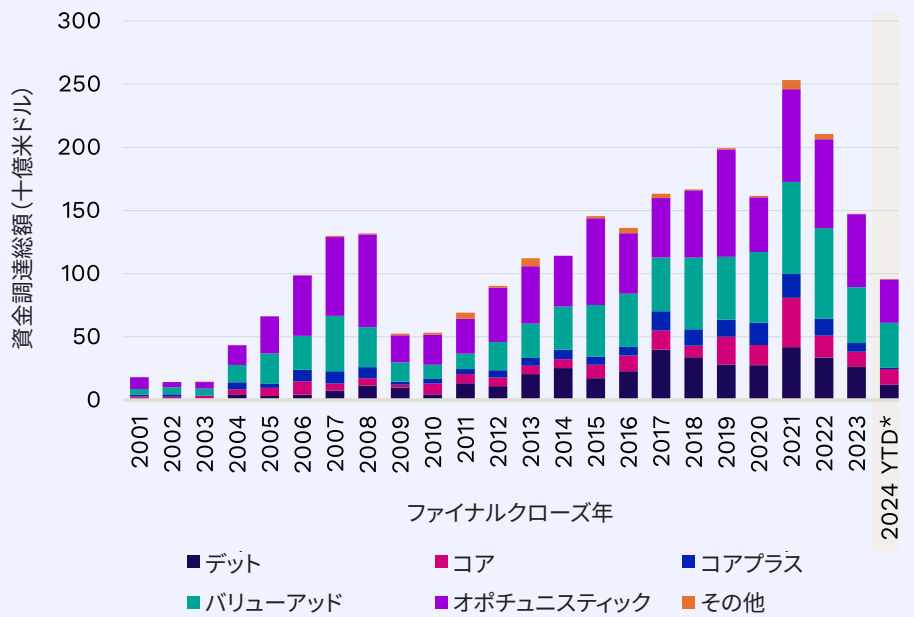
- 不動産戦略のうち、2024年第1～第3四半期に2023年通年を上回る資金を調達したのはコア戦略のみとなっています(図5.2)。
- また、バリューストック戦略ファンドは第3四半期までに全体の37%に相当する360億米ドルを調達し、オポチュニスティック戦略の資金調達を上回りました。2023年は、オポチュニスティック戦略が資金調達を牽引し、同年第3四半期までに資金調達額全体の43%である520億米ドルを調達しました。
- 金利引き下げに伴い、主要な不動産市場の既存物件のバリュエーション改善が予想されます。そのため、今後、バイアンドホールド(買い持ち)や物件の付加価値を重視するコアやバリューストック戦略などのパフォーマンスが大幅に回復し、投資家の注目を取り戻すとみられます。

図5.1:募集中の私募不動産ファンド



出所: Preqin Pro、2024年9月時点

図5.2:戦略別・不動産ファンドの資金調達総額



*2024年第1～第3四半期

出所: PreqinPro、2024年9月時点

コメント

Preqinアナリスト

- 「米国の利下げが予想より遅かったため、投資家によるファンドへの新規出資ペースが遅れた可能性があることは注目に値します。投資家は金利低下を予想し、戦略やリスクエクスポージャーの観点から資産配分を変更しています」

Henry Lam
CFA, CAIA AVP, Research Insights

識者

- 「リスク調整後ベースで極めて魅力的な、株式のような堅調なリターンが得られることから、ここ数年、プライベートクレジットへの投資意欲は非常に旺盛です。住宅のクレジットは、キャッシュフローが底堅さを発揮し、2桁台前半の持続的な高い利回りを提供しています」

Kevin Kaberna
Executive Director, North America Investment Management Leader, Greystar

インフラ

金利が低下し始めているにもかかわらず、 資金調達は依然低調

「[Preqin グローバルレポート 2025年：インフラ](#)」からの一部抜粋です。



リードアナリスト
Alex Murray (PhD)
ロンドン拠点
リサーチインサイト
リアルアセットのヘッド



[レポートをみる](#)

AUMに占めるドライパウダーの割合は過去最低に

- インフラのドライパウダーは2024年第1四半期末時点で3,350億米ドルに減少し、AUMに占める割合は24%と過去最低を記録しました。なお、2020年末時点での同割合は35%でした(図6.1)。
- ただ、2024年第1四半期末までの1年間のキャピタルコール(930億米ドル)の3.6倍に相当するドライパウダーはまだ残っています。
- ドライパウダーの減少は、現在キャピタルコールの減速によって抑制されていますが、資金調達が回復しない限り、いずれアセットバリュエーションに影響を及ぼす可能性があります。

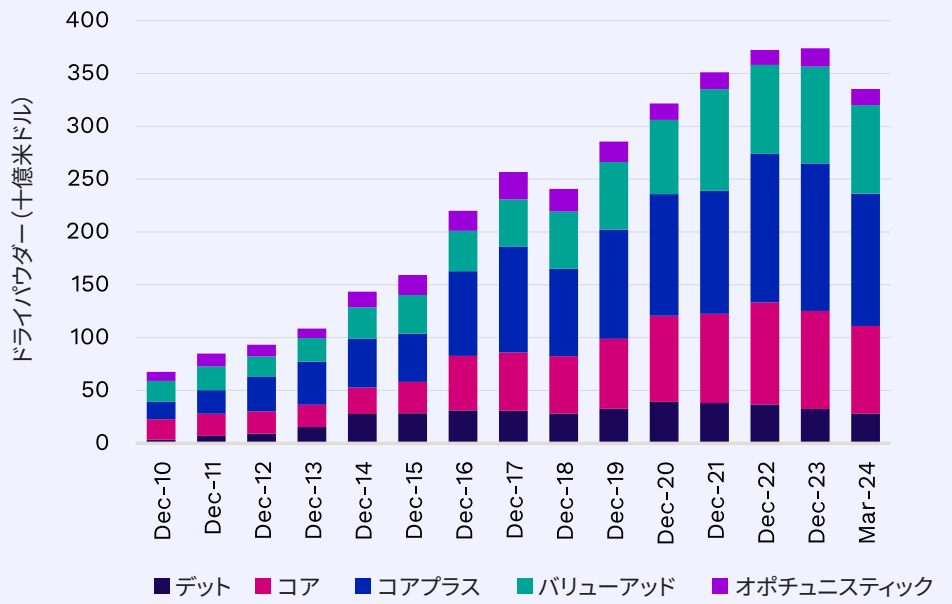
低調な資金調達市場に北米特化ファンドの鈍化が追い打ち

- コロナ禍を含め、長期的にインフラのパフォーマンスは好調だったにもかかわらず、投資家のコミットメントは2022年に急増した後、リバランスの一環として減少しました。
- 特に北米特化ファンドの資金調達が鈍化しており、2024年第1～第3四半期にクローズしたファンド数は2021年のピーク時の63本からわずか18本に減少し、資金調達総額は2022年同期の24%にとどまっています(図6.2)。
- とはいえ、投資家調査によると、最良の投資機会を提供する先進国市場として、92%の投資家が北米を選んでおり、短期的には米国の政策を巡る不確実性が残っているものの、北米市場の人気は変わっていません。

リターン創出を巡るファンドマネージャーの懸念事項は変化

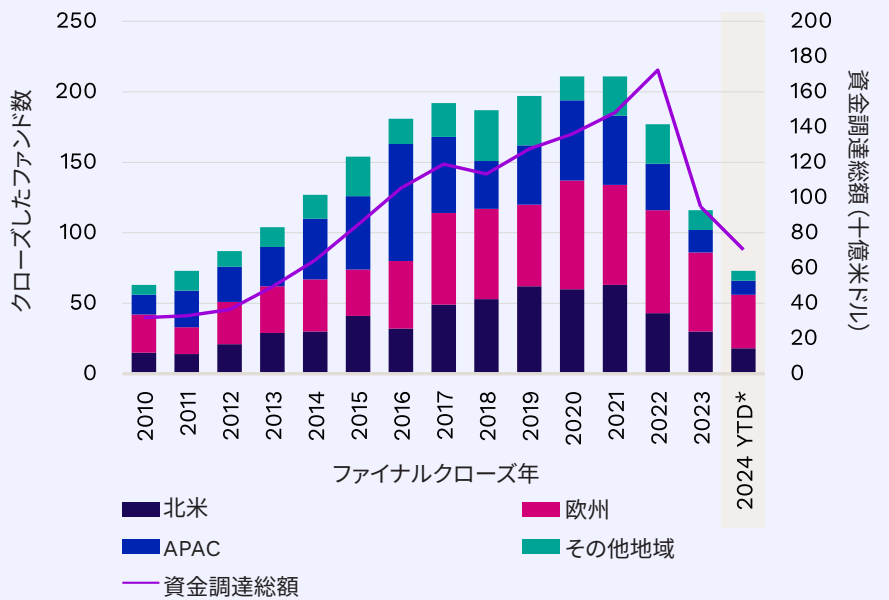
- 最新のファンドマネージャー調査において、今後1年のリターン創出に対する主な課題として最も選択されたのは地政学的リスクで、41%のインフラマネージャーが懸念事項に挙げました。
- また、投資家は、第二次トランプ政権の政策に注視しています。インフレ抑制法(IRA)の廃止や中国のEV企業への関税の扱いなどにより、再生可能エネルギー特化ファンドに影響が出るのではないかと考えています。
- 一方、明るい側面としては、金利に関する投資家の懸念は後退しており、最新の調査ではリターン創出に対する課題として金利を挙げた投資家は47%と、2023年調査時の65%から減少しました。

図6.1:主要戦略別・ドライパウダー



出所:Preqin Pro

図6.2:特化地域別・クローズした非上場インフラファンド



*2024年初来

出所:Preqin Pro

コメント

Preqinアナリスト

- 「インフラの資金調達環境やディール環境はなお低調ですが、パフォーマンスは底堅さを保っています。Preqinインデックスによると、2009年以降、パフォーマンスは一貫してプラスで、1つの四半期を除くすべての四半期で上昇しています。しかし、近年のインフラファンドのパフォーマンスは足元の金利水準によって妨げられており、懸念は高まっています」

Alex Murray

PhD VP, Head of Real Assets, Research Insights

識者

- 「セカンダリー戦略を成功させるには、マネージャーとアセットの質の両方に関する情報の優位性が必要です。この情報優位性は、プライマリーアセットの規模、マネージャーとアセットレベルのデータの質、共同投資プラットフォームからのアセットレベルデータの分析能力、の3つが必要となります」

James O'Leary

Head of Infrastructure and Real Assets, StepStone Group

Preqin Anywhere

Preqinデータにいつでもどこでもアクセス



Preqinデータを連携できる外部ツール

- Excelプラグイン、Salesforceプラグイン
- Snowflake、AWS
- CRM
- データフィード、API

[詳しくみる](#)

オルタナティブ投資に携わる
世界中の方に
必要なデータとインサイトを

preqin.com/jp

preqin.japan@preqin.com